

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：2月15日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組
《1月のおはなし会で使った本》

『あっぷっぷ』（大型絵本） くすはら順子/人形製作 チャイルド本社 2019

『ゆきだるまのぼたん』 やすいすえこ/脚本 渡辺有一/絵 童心社 2008

『あかおにちゃんとあおおにちゃんのさがしてどこどこ？』 西内としお/作・絵 教育劇画 2021

『にんじんとごぼうとだいこん』（大型絵本） 和歌山静子/絵 鈴木出版 2007

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本－乳幼児から＞

『おもち』 彦坂有紀/さく 福音館書店 2021.11 ¥900

網の上におもちをのせてさあ焼こう。じりじりじりじりとだんだん熱くなって、ちりちりちりりとほんのり裏が焼けてきた。ぱりぱりぱりとこんがり裏が焼けたなら、ひっくり返して反対がわも。ぱりぱりぷくりとふくらんで…。表紙には美味しそうに焼けたおもち。磯辺焼きにきなこにあんこにからみもち、いろんな味で召し上がれ。お餅が焼けていく様子を美しい木版画で描いた絵本。

＜絵本－3, 4歳から＞

『もりはみている』 大竹英洋/文・写真 福音館書店 2021.9 ¥900

静まりかえった森のなか。松の木の巣穴の奥からあかりすがみている。杉の木のこずえの陰からごじゅうからがみている。ヤマナラシの木の枝の上から子ぐまの兄弟がみている。その下でお母さんぐまもじっとこちをみている。北米ノースウッドをフィールドに、自然や野生動物を撮り続けている写真家が、森にすむ動物たちのまなざしをとらえた、愛らしく美しい写真絵本。

＜絵本－5, 6歳から＞

『やっぱりじゃない!』 チョーヒカル/作 フレーベル館 2021.11 ¥1400

ピザ…かと思ったら、かぼちゃ！豆大福に栗まんじゅうにみたらし団子…かと思ったら、みかん！小さな魚…かと思ったら、豆！固定概念を覆される魔術不思議な世界。見た目や思い込みにとらわれず、想像力をふくらませてみよう。体や物にリアルなペイントをする作品で知られ、国内外で注目されるアーティスト、チョーヒカルの不思議な写真絵本『じゃない!』の第二弾。英文併記。

『おしっこ、うんこはどこに行く?』 中川ひろたか/作 カワチレン/絵 アリス館 2021.11 ¥1400

ある時ぼくは考えた。ぼくがトイレでおしっこやうんこ、流したトイレの水、手を洗った水、洗濯機やお風呂の水は、いったいどこに流れていくんだろう？お父さんにきいてみると、「それじゃ探検だ!」とぼくたちは、体が小さくなる薬を飲んでトイレの中に飛び込んだ！素材な疑問から生まれた、おしっこやうんこが流れていく先にある世界を楽しくわかりやすく描いた絵本。

＜絵本－小学校低学年から＞

『夜をあらく』 マリー・ドルレアン/作 よしいかずみ/訳 BL出版 2021.11 ¥1600

ママとパパとぼくたちは、まだ夜中のうちに夜の道を歩きます。まだ眠っている町の中を足音をたてずに歩いていく。広い道路から山道に入りさらに進んでいくと、お月さまや満天の星がぼくたちをつつみ照らす。さらに山を一步一步登り頂上へ…。深く青い夜の情景、山の頂上からみた稜線を彩る夜明けの風景が美しく描かれる。フランスの文学賞ランデルノー賞（子どもの本部門）受賞。

『ひめさま!ぞうはすごくおおきいでござる』 丸山誠司/作 光村教育図書 2021.10 ¥1300

ぞうをみたことがない姫さまのもとへ日本各地の忍者たちが報告に。沖縄のゴーヤ忍者によると、ぞうは「でーじまぎい」宮崎のマンゴー忍者は「てっげふってー」福岡のめんたいこ忍者は「ぱりふとか」。次々とぞうをみた忍者からの知らせが入り姫さまはそれを頼りにぞうの姿を描いてみるが…。日本各地の特産品もさることながら、各地の方言に言葉の面白さを再発見するユーモア絵本。

＜絵本－中学生から＞

『ブルーノ』 Fukase/作 福音館書店 2021.10 ¥1500

タルカスが住んでいるのは平和な王国ブルーノのシルバと呼ばれる小さな村。ある日、ひどい嵐に襲われ、タルカスはひとり娘のピギーを失ってしまう。国民が苦しんでいるときに王様は…？ 前からはタルカスの物語が、後ろからは王様の物語が描かれており、人間関係について考えさせられる作品。SEKAI NO OWARI・Fukaseによる初の絵本。

＜読み物－小学校低学年から＞

『しんぱいなことがありません!』 工藤純子/作 吉田尚令/絵 金の星社 2021.11 ¥1200

学校に忘れ物をすることが心配でたまらない小1のももちゃん。持ち物を何度も確認するだけではまだ足りなくて、ついにはランドセルに全部勉強道具を詰めて登校する始末。一方、隣の席のかずまくんは何でも学校へ置きっぱなしで、ランドセルの中身は筆箱だけ。宿題をやらずに先生に注意されても平気。心配性のももと楽天的なかずま。お互い正反対の性格の二人の愉快な物語。

『親切なおぼけ』 若竹七海/作 杉田比呂美/絵 光文社 2021.11 ¥1600

近所の人からは「おぼけやしき」と呼ばれるくらい古い家に住むノノコ。友だちに「おぼけだから遊んでやらない」と言われるが、一人でいても全然平気。それを心配していたおじいさんは、だったらいいおぼけになるようにと言い残して死んでしまう。何をすればいいおぼけになれるのか。お葬式の最中も、いいと思うことを行動に移すノノコだったが…。2006年発行本の改訂新装版。

<読み物—小学校中学年から>

『ぼくちのねこのはなし』 いたうみく/作 祖敷大輔/絵 くもん出版 2021.12 ¥1300

小4のぼくちの「ことら」は16歳の雄猫。人間でいうと80歳。ごはんを食べなくなり、動物病院で腎不全という治らない病気だと診断される。再検査のために病院へ通い、家で毎日点滴をしても元気がならないことら。治療費がべらぼうにかかることを気にするお母さんにもいららす。そしてある朝、遂にお別れの時が…。ペットとの死別と家族の思いを描く物語。

<読み物—小学校高学年から>

『飛べないハトを見つけた日から』 クリス・ダレーシー/作 相良倫子/訳 東郷なりさ/絵 徳間書店 2021.11 ¥1600

ダリルが公園で見つけたのは、ケガで飛べなくなったレースバト。家族の猛反対を受けたが、きちんと世話をすることを条件に飼うことに。もう一度飛ばせてやりたいと、レースバト飼育のことを教わったり、ハトの持ち主にハトを譲ってもらったりして、愛情深く世話を続けた。一羽のハトとの出会いから、たくましく成長する少年の姿を描いた、英国カーネギー賞オナー賞受賞作。

<読み物—中学生から>

『ペイント』 イ・ヒョン/著 小山内園子/訳 イースト・プレス 2021.11 ¥1500

ジェヌ301は「国家の子ども」としてNCセンターで暮らす17歳。センターの職員たちは彼に適した親候補と面談させるが、辛辣な批評で面談者をこき下ろしては破談に。そんなある日、面談がセットされたカップルにジェヌはこれまでにない感覚を抱き、初めて再度の面談を希望する。ジェヌは二人の子になることを選ぶのか…。親子の在り方を考えさせられる作品。

『ソフィーの秘密』 ニキ・コーンウェル/作 渋谷弘子/訳 文研出版 2021.11 ¥1500

クリストフは14歳のルワンダ人。8歳の時に両親と共にロンドンに移住し、友人にも恵まれ楽しい学校生活を送っているが、ルワンダのジェノサイドで弟を失っている。9年生になったある日、いとこで同い年のソフィーと一緒に住むことに。母親を亡くしたソフィーを気遣うクリストフ。しかし、ソフィーには人に言えない苦悩があり…。クリストフの物語3部作の完結編。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『動物はわたしたちの大切なパートナー 1 命に責任をもつ』 谷田創/監修 WAVE出版 2021.11 ¥3000

ペットショップで売られているかわいも動物の赤ちゃん、どこからやってきたの？ どうして値段が違うの？ 動物を家族として迎え入れる心構えは？ 幸せになれなかったペットがいることを知ってる？ 私たちに癒しを与えてくれる命あるペットを飼うことの意味や責任について、マンガやイラストを交えて紹介。他に「2 命を生産・利用する」「3 命を保護・管理する」の全3巻。

『うんこでつながる世界とわたし ①きれい？きたない？』 湯澤規子/編 石井聖岳/絵 農山漁村文化協会 2021.12 ¥2500

朝、家でうんこが出なくて心配なケンタくん。登校中にイヌのうんこをふんじやった！「キタナイ、サイアクだあ」と叫んだケンタくんのところに、うんこの大切さを教えてくれる虫が現れ…。うんこが登場する神話やうんこを作る体の秘密、うんこを巡る生態系などを、絵本で楽しく紹介する。『②どこからきてどこへいく？』『③うんこがにぎる未来社会』の全3巻。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『若冲の絵本みつけた！』 結城昌子/構成・文 小学館 2021.12 ¥1500

あっちにもこっちにも小さな生き物がいるよ。アブにアゲハチョウ、ケムシ。「みつけた！」命あるものすべてを心をこめて描いた江戸時代の絵師・伊藤若冲。彼が40代のほぼ10年をかけて描いた代表作「動物戯絵」を中心に、今再びたくさんの人に愛される作品の魅力を紹介する。アートの感性を養うロングセラーシリーズ「小学館あーとぶっく」の⑩。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『月別カレンダーで1からわかる！日本の政治』 伊藤賀一/監修 小峰書店 2021.12 ¥4000

通常国会の開会、新年度の予算案の審議、法律案や条約などの審議、統一地方選挙の実施など、政治に関係する行事を月ごとに紹介。それに関連する国会の仕組みや役割、憲法や法律、裁判所の仕組みなどをたくさんの写真やイラスト、表とともにわかりやすく解説する。監修はオンライン予備校で社会7科目を担当する講師。掲載の情報は2021年11月時点のもの。

<ノンフィクション—中学生から>

『ぼくらの感染症サバイバル 病に立ち向かった日本人の奮闘記』 香西豊子/監修 いろは出版 2021.12 ¥1500

私たちの日常生活を大きく変えてしまった「感染症」。医療社会学の専門家の監修のもと、感染症に関する歴史や人物等について、日本を中心にマンガや図表を使った文章でわかりやすく解説。過去の感染症に関する差別などの事実にも言及し、同じ過ちを繰り返さないでほしいというメッセージが込められている。感染症事典、感染症歴史人物事典なども収録。

<研究書>

『わらべうたと心理学の出会い 子どもも大人もぐんぐん育つ』 湯澤美紀/編著 金子書房 2021.11 ¥2700

「わらべうた」を心理学の分野から考察し、子どもの発達により効果があるだけでなく、子どもに関わる大人へも様々な効果があることを具体例を挙げて解説。わらべうたの楽譜や遊び方も掲載し、実用編ではわらべうたを含んだ集いや読書案内等の事例が紹介されており、すぐに実践できる。巻末には紹介したわらべうた一覧表と引用文献・参考文献あり。

『日本の絵本100年100人100冊』 広松由希子/著 玉川大学出版部 2021.12 ¥7000

絵本の評論や展示企画などを手がける著者が、自身の所蔵する絵本の中から大正から平成までの約100年間に出版された100作品を選び、発表された年代順で紹介。作家の代表作にこだわらず、時代を反映した作品を掲載。解説では画家だけでなく、文章作家にも言及している。巻末の絵本年譜(1870-2020)には日本の絵本とそれを取り巻く国内外の動向を記載。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

